

2020年度 教職課程活動報告

大西 勝也

2020年度は、コロナ禍の中、例年にない対応に追われた一年となりました。

○授業

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前学期は、すべてオンライン授業（オンタイム型、オンデマンド型）となりました。後学期は、実習関係の授業を中心に、少人数の授業では、感染防止対策の厳格な実施の下で対面授業が可能となりました。

前学期のオンライン授業は、ほとんどの大学教員にとって初めての試みで、各自が試行錯誤しながらなんとか実現したというのが実情でした。それまで当たり前と思っていた対面式の授業とは勝手が違い、準備により多くの時間が取られましたし、ICTへの習熟が急に必要になる状況下では、授業の準備とICTに関わるスキルアップが同時並行的に求められるという意味で二重の負担が生じました。学生と教員のコミュニケーション、また、学生同士のコミュニケーションをどのようにとるか、この点は、アクティブラーニングを取り入れた授業を実践する際、オンライン授業での大きな課題となりました。そもそも教職課程の授業のほとんどがアクティブラーニングを積極的に取り入れていて、その中には、模擬授業や実技を取り入れた実践力育成の授業もあるので、全てオンライン授業というのは、やりづらい面が多々ありました。

しかし、大変なのは教員だけではありません。

オンライン授業に困惑したのは、学生のみなさんも同じでした。「Zoom疲れ」という言葉もあるように、ひたすらパソコンやタブレットを前にしての受講、授業ごとに課される課題に追われ、新たな人との直接の出会いや自由なキャンパスライフができないというのは、窮屈で大変だったと思います。その中で、学生のみなさんはよく頑張ったと思います。

教職課程最後の必修科目「教職実践演習（中学・高校）」（4年次後学期）では最終回に各ミニゼミ（9～10名）の報告会が開催されるのが恒例ですが、今年度は、例年の対面式ではなく、Zoomを用いたオンライン（オンタイム型）授業の形態で報告会が行われました（12/18）。

全てのミニゼミがレベルの高い内容を素晴らしいチームプレイで報告していました。

学生のみなさんのICT活用能力、コミュニケーション能力、探究能力、そして、新たな環境への順応力の高さに感心しました。

○教育実習

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、新学期から多くの学校で臨時休校等の体制が取られ、例年通り前学期に実習を行うことが困難な状況でした。文部科学省からは実施時期を秋以降に変更することや実習期間の弾力化に関する通知が出され、大半の学生が後学期実習となりました。うち2割は実習期間が短縮されたため文部科学省の通知に則り、教員免許取得のために不足する実習期間を学校ボランティア等の学校体験活動や大学における演習で代替しました。

コロナ禍において、学校現場は多忙を極めたにも関わらず、教育実習や学校体験をお引き受けくださった先生方に、また、代替授業をご担当いただいた先生方に感謝いたします。

○介護等体験

介護等体験においても全国的に体験の実施が非常に困難な状況となりました。当初、希望者全員体験を完了することは難しいものと思われましたが、この状況を受けて、介護等体験に関する法律の施行規則が一部改正され、今年度に限り特例的な措置としての代替措置が定められたため、当該措置を受けて介護等体験が免除されることとなりました。

○教員採用試験対策

教職課程の先生方のご尽力で、教員採用試験に向けては、オンライン指導に加えて、感染防止対策の下、面接等についての対策指導が対面で行われました。

厳しい状況の中で学生の将来のためお力添えをいただいたことに御礼申し上げます。

○教員免許状更新講習（必修・選択必修領域）

当初、例年通り対面式の講習を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、急遽、オンライン講習（オンデマンド型）に切り替えることが決定され、8月中旬に実施されました。受講者からは、予想以上の高評価をいただきました。講習の責任者と講師の先生方には、オンライン講習への切り替えにご対応いただいたことに感謝いたします。

来年度の講習は対面で実施予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインにて実施できるよう調整中です。

○教職課程非常勤講師打ち合わせ会

例年、学部ごとに対面で実施されていますが、今回は横浜・ひらつかの両キャンパスと、2021年度に開設されるみなとみらいキャンパスで教職課程科目を担当する先生を交え、オンライン（オンタイム型）の懇談会となる予定です（2021年3月実施）。2021年度の授業運営等に向けて活発な議論が交わされることを期待しています。 以上